三鷹市の「コミュニティ・スクール」から学ぶ 地域から学校へ、学校から地域へと双方向に展開する協働のヒント



三鷹の森学園 三鷹市立第三中学校 校長（取材当時） 並木茂男

三鷹市の「コミュニティ・スクール」から学ぶ 地域から学校へ、学校から地域へと 双方向に展開する協働のヒント

三鷹の森学園 三鷹市立第三中学校 校長（取材当時） 並木茂男

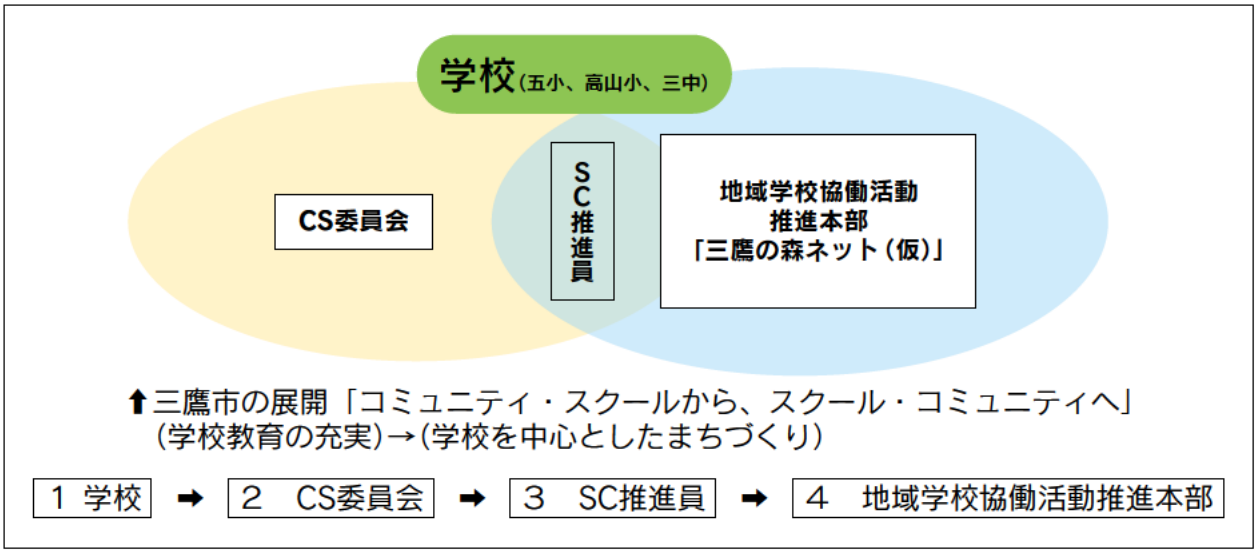
学校だけでは得られない学びを提供し、地域とともに子どもを育てる学校の仕組みである「コミュニティ・スクール」。保護者や住民が学校運営に参画し学びを支える取組は、近年広がりを見せています。学校と地域の協働が求められる背景には、学びそのものが実社会と切り離せないものへと変化している現状があります。消費者教育もまた、デジタル社会の進展や金融経済教育の一般化により、学校だけで完結しにくい領域へと展開し家庭や地域団体・企業、社会教育機関との連携が不可欠となっています。本記事では、コミュニティ・スクールのノウハウを手がかりに、消費者教育のこれからを考えます。全国に先駆けてコミュニティ・スクールを基盤とした教育を進めている三鷹市立第三中学校より、学校長の並木茂男氏（2026年１月取材当時）にお話を伺いました。

地域の多様な人が関わることで学校と地域をにぎやかに

▶まず、三鷹市のコミュニティ・スクールについて教えてください。

三鷹市は市内を７つの地域に分け、各地域の小中学校を一貫教育の“学園”として束ね、各学園に地域住民で構成される「コミュニティ・スクール委員会（学校運営協議会／以下CS委員会）」を置き、学校運営について話し合ったりサポートしたりする「コミュニティ・スクール」を2006年から始めました。もともと三鷹市は市民が主役となり、地域課題を自分たちで考え、解決していくことを行政が支える仕組みである「コミュニティ行政」を進めており、その延長線上にあると考えます。

CS委員会とPTAは別組織です。CS委員会は、地域の町会や自治会等で活躍している方や、元保護者の方、そして小中学校の校長と副校長で構成されていて、特にここ「三鷹の森学園」は現役保護者も含め若い世代の方が多いのが特色です。28人の多様な方々が参加し、委員会と役員会がそれぞれ月１回あります。



コミュニティ・スキール　三鷹の森学園イメージ図

▶コミュニティ・スクールについて、並木先生が感じていることを教えてください。

私は三鷹市立第三中学校の校長に着任して４年目（取材当時）になります。これまで、都内の様々な地域の学校で教職員をしてきて、三鷹市では家族的な雰囲気を感じることが多いです。三鷹市では１つの小学校から２つの中学校に分かれることがないので、学校としても小中の連携の取りやすさを感じています。三鷹市の中でも、地域によって特徴やニーズは違ってきます。市で一律に実施しようとすると、どこかに苦しさが出てくる可能性がありますが、地域単位だと地域の実態に応じたニーズに沿いやすくなると感じています。また、７つの学園が切磋琢磨し高め合っているのも素晴らしいと感じていますね。

▶地域の方の学校との関わりについて教えてください。

たとえば、本校の、社会人による出前授業「職業人の話を聞く会」はCS委員会の全面協力の下、主催しています。毎年５名ほど、地域の様々な業界の講師に来ていただいています。また、令和７年度の秋には、同じくCS委員会の主催で、認知症カフェも行いました。中学校でも４年間認知症サポーター養成講座を実施しているので、地域も含めさらに理解の輪が広がったと感じています。

また、卒業式前に、義務教育の修了と地域の一員になることを祝う会を毎年開いてくれます。地域の和太鼓の会が生徒たちにも太鼓を体験させてくれて、地域で卒業を祝い、最後はお囃子で送り出します。お囃子には小学生もいて、広い世代で地域としてお祝いをしてくれることに温もりを感じます。こういう活動があるおかげで、子どもたちのシチズンシップも育ちやすい土壌となっているのではと思います。

▶消費者教育という観点での取組はありますか？

私が着任してからは、令和５年度に中３生200人に向けて、証券会社に勤めている保護者の方

に投資の話をしていただきました。投資や経済に興味がある生徒も多く、「投資とギャンブルはどう違うんですか？」と鋭い質問をしていた生徒もいました。生徒たちの興味関心が高くて反響もあったので、令和６年度はPTAの「一日家庭教育学級」という枠組みを使い、大和証券吉祥寺支店長を講師に「中学生と保護者のための金融リテラシー向上セミナー」を開催しました。これも、大和証券が出張授業に取り組んでいることを知っている方がつないでくれました。

一日家庭教育学級は通常、保護者だけなのですが、このときはイベントを担当したPTA役員のアイデアで、生徒も一緒に学ぶことにしました。生徒７～８人、保護者20人が参加してくれました。お金について親子で話すきっかけになったという感想を聞き、手ごたえを感じています。

やはり、プロフェッショナルの方のお話は説得力が違います。家庭科や社会科で消費者教育について学びますが、教科書に書かれていない詳しいお話やアップデートされた情報を聞ける貴重な機会です。



「中学生と保護者のための金融リテラシー向上セミナー」チラシ

コミュニティ・スクールから学ぶ消費者教育のヒント

地域から学校へ、学校から地域へと人の輪や取組が広がるコミュニティ・スクールのあり方には、消費者教育のヒントが詰まっています。４つのポイントに分けて、そのヒントを見ていきます。

POINT 1　消費者教育の広がりをさらに推進

子どもたちの間でもゲーム課金やスマホを巡る消費者トラブルはあります。そこで、情報モラルの枠で「セーフティ教室」を毎年やっています。消費者教育ともつながる内容ですね。最初は外部講師の方を呼んでいましたが、教員が自分たちも勉強したいと奮起し、通信会社が作成した最新の動画教材なども活用させてもらって、今は教員が講座を行っています。

ほかにも、税理士さんや社会保険労務士さんの講座も毎年行っていて、広い意味でお金の学習、消費者教育になっていると思います。消費者教育はカバーする範囲がますます広がっているので、色々な入り口から消費者教育につなげていけると感じています。

POINT 2　関係者を増やすことで負担を分け合い、活性化

外部講師の人選から依頼・調整は、以前は100%教員がやっていました。今はコミュニティ・スクールやPTAが活発に活動していて、教員の負担はかなり減っていると感じます。教員にも変化はあって、コミュニティ・スクールやPTAを通して外部講師を頻繁に呼ぶメリットや効果を実感し、依頼のハードルが下がっています。やはり子どもたちにとってプラスになることが実感できるとモチベーションが上がるようです。さらに、外部講師の方に来ていただくと後の学習がとても効果的になるということも感じています。

今後、ハンセン病問題について弁護士の方の出前授業を予定しています。弁護士会から来たお知らせを見た教員が、「ぜひ本校でもやりたい」と声を上げてくれました。

POINT 3　三鷹に浸透している「熟議」の文化

三鷹は話し合いの場を「熟議」と呼んでいます。以前、ある政治家がよく使っていた言葉で、なぜか三鷹でよく定着しているようです。「熟慮」して「議論」を重ねて課題解決を目指す対話で、CS委員会などはまさにその実践の場となっており、コミュニティ・スクールにとって不可欠なプロセスです。学校現場のみならず地域や家庭で、子どもたちが世代すらも超えて、社会性のあるテーマについて熟議を重ねる様子は、机上での学び以上に多角的であり、これから先社会に出た際に強みとなるような、“実践”に近しい学びを得られるように思え、豊かな効果を発揮しているように感じます。

POINT 4　リスペクトを忘れずに

PTAやコミュニティ・スクールは第一線で活躍する多様な方々が関わっていますから、一枚岩というわけにはいきません。だからこそ、協力するにはお互いをリスペクトすることがとても重要です。スケジュールなど実務面はもちろん、先方のお立場や専門性による考え方の違いなど、本質的な部分を含めてお互いの立場を尊重することが、持続可能な取組につなげていくための、最も重要なポイントだと思います。

地域の人は「力」も「思い」もある。
それをつなげることが大事

▶コミュニティ・スクールが定着することで、起きた変化はありますか？

中学３年生とは面談があって一人ひとりから話を聞きますが、聞いたことのないような専門的な学問の話をすることがあります。「どこで知ったの？」と尋ねると、地域の人から聞いたと言っていました。

また、学校から地域に出るとき、以前は休日や夜間でも教員がボランティアで引率するのが当たり前でしたが、昨今は地域の方々が引き受けてくれるようになりました。今は、ボランティアを募集すると抽選になるほどです。保護者の皆さんも、地域行事は子どもたちだけで出かけても大丈夫という安心感があるようで、盛んになっているようです。この変化もコミュニティ・スクールの成果が次の段階に入っている証拠かと思います。

三鷹市は学校が元気になることで地域が元気になるという発想で「コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへ」という取組（学校三部制）もすすめています。地域の方が学校に協力することだけでなく、生徒の様々な地域活動への参加率の高さを見ると、学校（生徒）の方から地域へという動きも活発になっていると感じています。

▶今後の消費者教育の取組について教えてください。

例えば「エシカル教育」は、消費者教育の最先端で一番現実社会で重要な課題です。近年は、教科書でも扱っていますが、なかなか学校現場だけではカバーしきれない部分もあり、地域の力を借りて充実させることも有効だと考えています。不確実な時代と言われて久しいですけれども、想像力をもって行動しないと思わぬ落とし穴がありますから、様々な事例やケースのことも知り知識と生活や行動とをつなげながら考えられる思考力も育てたい。大人に対する安心感や信頼感は十分育っているのですが、一方で生徒が自分で自分の身を守っていくためには、消費者教育では世間には悪い人もいて、だまされないような思考力・判断力を育てる学習も大切だと考えています。

▶消費者教育を担う先生方や、一般消費者の皆さんにメッセージをお願いします。

三鷹市のコミュニティ・スクールをつくる中心となられた全国的に有名な前教育長からは、「地域の人も学校のために何かしたいと思ってくれている。自分のまちの後輩や近所の子どもたちのためにと、力も思いもある。それをつなげるのが大事」であることを教えていただきました。

学校・地域・家庭が相互に敬意を持ち、真に必要な学びは何かを考えながら、有効で持続可能な学習機会としての消費者教育を構築していきたいですね。その際、企業の力や、消費者教育コーディネーターなどの人材の活用、工夫や改善を重ねている行政や各団体の教材も有効利用できます。地域のニーズや実態に合わせてアレンジしていけば、消費者教育の活動を活発にしていくことはできると思います。

▶ありがとうございました。

もっと知りたい方はこちら！

三鷹の森学園　三鷹市立第三中学校ホームページ：

https://sanchu.ms.mitaka.ed.jp